

森林総合監理士等連携会議を開催

〔技術普及課、東濃署、森林技術・支援センター〕11月5日から6日の2日間、森林総合監理士等連携会議を岐阜県下呂市と中津川市で開催しました。この会議は、民有林・国有林の森林総合監理士等が一堂に会し、日頃の活動報告や森林施業プランナーとの意見交換を通じた情報の共有、課題となっているニホンジカ被害対策、コンテナ苗などの知見を深めることで今後の活動に生かすことを目的としています。

当日は、中部ブロック准フォレスター研修並びに技術者育成研修を受講した者など、5県の民有林関係者9名、中部森林管理局職員28名が参加しました。

1日目の全体会議では、森林総合監理士として活動を進めて行く上で、森林施業プランナーとの連携が重要であることから、岐阜県揖斐郡森林組合の後藤プランナーと南ひだ森林組合の日下部プランナーの2名にプランナーとしての活動を報告していただいた後、参加者から事前に聞き取った質問事項などについて回答していただく形で意見交換を行いました。各プランナーからは、森林総合監理士の認知度が低いといった指摘や、国有林が森林所有者を対象として間伐実行中に見学会を開いてはどうかといった提案をいただきました。

2日目は、東濃森林管理署管内湯舟沢国有林において、東濃署総括森林整備官から伐採・造林一貫作業システムやニホンジカ被害対策の取り組みについて、森林技術・支援センター森林技術普及専門官からコンテナ苗専用植栽器具について、岐阜県森林研究所渡邊専門研究員から岐阜県におけるコンテナ苗研究の取り組みについて説明を受けました。その後、ヒノキコンテナ苗の植栽体験を専用の植栽器具を用いて行いました。

コンテナ苗を初めて見た参加者からは、「他地域での取組事例は新たな知見が得られ参考になった」との感想がありました。その後、中津川市加子母の「森の合板協同組合森の合板工場」において、佐藤理事の案内により工場内を見学し、合板ができるまでの工程について、併せて原木の入荷状況等について説明を受けました。

2日間を通じ、参加した者同士の情報交換、技術・知識の共有の良い機会となりました。



森林施業プランナーとの意見交換